

DAFTAR ISI

HALAMAN PENGESAHAN	i
HALAMAN PERNYATAAN ORISINILITAS	ii
PERNYATAAN PUBLIKASI SKRIPSI	iii
KATA PENGANTAR	iv
DAFTAR ISI	vii
BAB I PENDAHULUAN	1
1.1 Latar Belakang Masalah	1
1.2 Rumusan Masalah	9
1.3 Tujuan Penelitian	9
1.4 Metode Penelitian dan Teknik Penelitian	9
1.5 Organisasi Penulisan	10
BAB II KAJIAN TEORI	11
2.1 Sintaksis	11
2.1.1 Frase	11
2.1.2 Klausa	12
2.1.3 Kalimat	13
2.2 Semantik	14
2.2.1 Makna Leksikal	15
2.2.2 Makna Gramatikal	16
2.3 Kelas Kata / <i>Hinshi</i> 「品詞」	17
2.4 Partikel / <i>Joshi</i> 「助詞」	17
2.4.1 Partikel Posposisi	19
2.4.2 Partikel Kasus / <i>Kakujoshi</i> 「格助詞」	19
2.5 Partikel Kasus Datif <i>Ni</i> / <i>Yokaku Ni</i> 「与格に」	23
BAB III ANALISA PENGGUNAAN PARTIKEL DATIF NI (に) PADA KALIMAT BAHASA JEPANG	28

3.1 Partikel Kasus Datif <i>Ni</i> Pada Kalimat Majemuk	29
3.2 Partikel Kasus Datif <i>Ni</i> Pada Kalimat Tunggal	44
BAB IV SIMPULAN	66
DAFTAR PUSTAKA	67
SINOPSIS	ix
LAMPIRAN	xii
RIWAYAT HIDUP	xxi



概要

日本語の文に格助詞の与格「に」：

意味論と統語論

序論

この世界でそれぞれの言語が特異ものがある、例えば、日本語です。日本語文の中に言葉だけでありません。しかし、他の大事なことがあって、それは助詞です。助詞のファッションは言葉と言葉を繋がっていることです。富田 (1993 : 68 – 70) によると、助詞が4分を分けてになります：「格助詞」、「接続助詞」、「副助詞」、「終助詞」であります。この論文に研究しているのは格助詞の与格「に」です。

格助詞の与格「に」は名詞と付けて、その名詞は受取人になりました。くの (1973 : 165) によると、与格は一般に動詞の間接目的を表示する。日本語では主に「に」で表される。その名詞は主語から何かをもらって、受取人になりました。与格「に」の使い方は一緒にくれる感じみたいの動詞を使います。例えば「あげる」や「くれる」や「やる」などがあります。

本論

たくさんデータがありまして、それに研究しました。そのデータは

2分に分けました：

1. 複文における格助詞の与格「に」

(15) それを見たお殿様は、喜んで、優しいお爺さんにたくさんのご褒美をくれました。

このデータは与格「に」が‘優しいお爺さん’と付けて、それに使う

動詞のは‘くれました’を使います。ですから、‘優しいお爺さん’は受取人になりました。

2. 単文における格助詞の与格「に」

(5) 千尋は、銭婆に、ハンコをさしだしました。

(STCNKK, 2001 : 140)

そのデータは‘銭婆’と与格「に」を付けて、それに使う動詞のはくれる感じみたいがある。‘銭婆’が受取人になります。ですから、千尋（主語）は銭婆にハンコをくれました。

結論

第三回に研究したデータにおけると、結果がありました。その結果は二つことに分けました：

1. 日本語文における格助詞の与格「に」の利用

日本語文におけると受取人を表す時、この「に」は名詞と付けまして、受取人になりました。そして、くれる感じたみたいな動詞を使います。

2. 日本語文における格助詞の与格「に」の意味役割

与格「に」は名詞とつけて、目的がありました。与格「に」は同じように、インドネシア語での 'kepada' と 'untuk' ということです。

